

リンゴの腐乱病とウッディードクター

September 18, 1999

腐乱病とは(Canker)

本病は、明治中期から大正時代に大発生し、昭和初期に終息した。その間、各地に廃園を続発させ、リンゴ産業を危機に陥れた病害である。その後は、昭和44年から51年にかけて増加を示した。

発病部位によって便宜上、枝腐乱と胴腐乱に大別される。被害の大きいのは胴腐乱である。茶褐色・湿潤状で、特に上下に拡大しやすく、時には1m以上の病斑となる。病斑部は多少へこみ、内部は醜臭がある。病原菌は発育枝などの剪定痕・大枝の切り口・風雪による裂傷部及び日焼け部などから侵入する。病原菌は樹皮を腐敗させ繁殖するが、一部は木質も侵す。

感染発病は、子のう胞子および柄胞子のいずれでも行われる。両胞子とも病斑部が融雪水又は雨水でぬれると流失し、水滴と共に風によって運ばれる。子のう胞子は秋から晩春にかけて飛散するが、柄胞子は時期によって量的な相違はあっても周年飛散するので、伝染源としての役割は大きい。結局、対処治療を実施しなければ病原菌の侵入は常時起こり得ることになる。

予防方法

大枝の切り口、風雪による裂傷などは新旧を問わず、病原菌の侵入門戸となりうるので、ていねいに塗布剤を塗るか、また泥巻きを行う。この処置は病原菌の侵入を防ぐばかりではなく、樹勢強化のためにも役立つ。

被害樹の治療「泥巻き法」

本病の治療に土壌を利用する試みは古くから行われてきたが、本法はそれを改良した民間技術である。発病部位によっては能力的に問題はあがるが、治療効果は高い。

樹木補修保護剤：ウッディードクターの特徴

- 水を通さず水蒸気（空気）を通す、呼吸する人工樹皮です。
- 抗菌効果により腐乱の進行防止と雑菌の侵入の防止となります。
- 自然の素材のため樹木に優しく、果樹に使用しても安心です。
- 予防と治療両面に使用できます。（樹木のカットバン）

ウッディードクターによる腐乱病治療

使用方法「治療法は泥巻きの手法です。」

ウッディードクターに水を加えて練り、これを病斑部より5～6cm広めに、厚さ2cm程度に塗る。

特長

- * ウッディードクターを使用する場合は、病斑部を削り取らなくても良い。
- * 水で病斑部を湿らすと埃等がとれて、ウッディードクターの付着性が良くなります。